

合併の趣意書

平成19年10月の大阪大学と大阪外国語大学との統合を踏まえて、大阪大学生生活協同組合と大阪外国語大学生生活協同組合の理事会は一致して生協の合併を提案します。合併後のキャンパスにおける学び・研究・福利厚生に関わるサービスの向上を図り新生大阪大学の発展に寄与することを目指し、合併に必要な諸手続きと総会を平成19年度中に漏れなく完了するための検討と準備作業を開始します。

(1) 生協合併の理由

- ① 両生活協同組合はそれぞれの大学の職域を組合の区域と定めていますが、大学の統合により両生協の区域は同一となります。「一定の地域又は職域による人と人との結合」(生協法)として設立される生協が、単一の大学内で分立競合することは、「1人は万人のために、万人は1人のために」という生活協同組合の理念に照らして望ましいことではありません。統合された大学という新たな環境の下で、生協もまた単一の生協として一区域内におけるより大きな協同互助をめざすことが求められています。
- ② 大学の統合により、学生・院生・教職員はすべて1つの大学の構成員として勉学・研究・職業生活を送ることになります。生協もまた統合して1大学を区域とすることにより、1) 大学全体に対応したより広い視野で、2) キャンパスにかかわらずすべての大学構成員を対象に、3) キャンパスを超えた大学構成員の活動にも対応して、よりよい勉学・研究環境の実現をめざすことが可能になります。大学の福利厚生に重要な役割を担う大学生協としても、1大学全体に対応した「協同」こそが必要です。
- ③ 今日の厳しい経営環境の下では、不必要な分立・分散を避け、同一区域内での力を集めることが不可欠でもあります。生協が合併して1大学に対応した組合となることは、1) 大学との円滑な関係、2) 経営基盤の安定、3) むだの無い合理的な運営をめざす上でも有益です。

(2) 合併の態様

大阪大学生生活協同組合を存続生協とする「吸収合併」とします。大学統合に伴う制約条件下、生協の合併行為として「吸収合併」が法的手法としても適切であり、手続き上双方の組合員総体に対し時間的且つ作業的負荷を軽減できます。

(3) 合併後新生生協が大切にしたいことは以下の事項です。

- ① 大阪大学及び大阪大学生生活協同組合、並びに大阪外国語大学及び大阪外国語大学生生活協同組合がそれぞれ培ってきた歴史と文化に対し互いに敬意を払います。
- ② 着実に融合を進め、新生生協として組合員により一層貢献できる組織を作ります。
- ③ 合併後においても引き続き、大学、大阪府、関係官庁、取引先、そして全国大学生生活協同組合連合会を始め、大学生協大阪事業連合、他大学生協、大阪府生活協同組合連合会など様々な組織との協同互助の関係を維持発展させるよう努めます。

一方自らに対しては、自立・自己責任の精神を怠らず、組合員に対するサービスの向上に努めます。

(4) **新生協のビジョン**に挙げた3項を基本として以下のような合併後の生協のビジョンを掲げ、その実現に邁進します。

- ① 生協の協同の理念に立ち、常に組合員に目を向け組合員の生活・利益を基本とする事業姿勢を持つ生協。
- ② 大学を取り巻く状況を見据えながら生協の目的を深く理解し、大学・大学構成員から信頼される事業展開を担いうる生協。
- ③ 大学の教育研究機能に貢献する生協。
- ④ 大学内の学びと交流あふれるキャンパス造りに貢献する生協。
- ⑤ 健全な運営体質を維持し、組合員に貢献し続けられる生協。
- ⑥ 高度な専門性・倫理性と高い志をもつ職員を擁する生協。

以上